

2023年1月18日

NHK広報局

## 1月メディア総局長定例記者会見要旨

### (1) テレビ70年キャンペーン（林メディア総局長）

NHKが日本で初めてテレビ放送を開始してから、2月1日で70年を迎える。70年前、当時の職員は、教科書もない中、悪戦苦闘しながらテレビの可能性を追求した。「時代を映す鏡」として、長年お茶の間で親しまれてきたテレビだが、今、環境は大きく変わっている。「テレビ70年」キャンペーンでは、長年支えてくださった視聴者のみなさまに感謝を伝えるとともに、今一度、テレビの果たすべき役割はなにか、新たな可能性を探っていく。2月から、テレビの70年の歩みを振り返る様々な番組を放送する。例えばNHKに残るアーカイブスからえりすぐった、貴重な映像をお届けする「TV70年！ 蔵出し映像まつり」。このほかにも、大河ドラマの誕生秘話を描く「大河ドラマが生まれた日」、スポーツや子ども番組など様々なジャンルでテレビの70年を振り返る番組が目白押し。「アナザーストーリーズ」では、テレビが伝えた世紀の出来事をえりすぐって、アンコール放送としてお届けする。また、番組だけでなく、実際にテレビの70年を「体感」できるイベント「超体験NHKフェス」を開催する。これまでNHKがお届けしてきた様々なジャンルの番組のブースが一堂に会し、画面でおなじみの番組の世界を、特設ステージのショーをはじめドラマのセットや、メタバースなどの最新技術を使ったコーナーで、直接体験して感じていただける。

最後に、ともに日本のテレビ業界をけん引してきた日本テレビとの連携について紹介する。日本テレビも8月には、同じくテレビ放送70年を迎える。60年、65年に続き、70年という節目も、ともにこれまで培ってきたテレビ文化を振り返り、これからのテレビの役割について考えていく“コラボウイーク”を企画している。詳しくは、今後の発表をお待ちいただきたい。

70年という節目を迎えるテレビだが、これからも視聴者のみなさまの生活に寄り添い、驚きとワクワクを提供出来る存在であり続けるよう、取り組んでいく。

（詳細は報道資料を参照）

### (2) BREAKING × NHK（熊埜御堂メディア戦略本部長）

2024年のパリオリンピックに向け、期待の新競技「ブレイキン」についてのNHKの取り組みを紹介する。豊かな個性を大切にすべくブレイキンの魅力を、NHKでは「踊ろう、あなたらしく。」のコンセプトのもと、放送、デジタル、イベントなど様々な形で伝える。まず、今年2月に開催される「全日本ブレイキン選手権」を共催し、生中継する。ブレイキンは、1970年代初頭、アメリカ、ニューヨークの若者たちが、暴力による争いをなくすために始めたとされる“ダンスバトル”が起源のアーバンスポーツでまたたく間に世界の若者たちに広まった。2024年パリオリンピックで新たな競技に採用され、日本選手は男女ともにパリでのメダル獲得が期待されている。また、ブレイキンには「個性を大切にすべく踊ろう」、そして「お互いの個性をリスペクトしよう」という素晴らしい文化がある。NHKでは、そうした文化や魅力を、様々な取り組みをつうじて多彩に伝え、幅広い世代にさらに愛されるコンテンツになるよう盛り上げていく。

（以下、担当者）

2月に開催される全日本ブレイキン選手権では日本代表入りを目指して、トップ選手が出場する。世界トップレベルの技、選手同士がダンスを見せ合う“バトル”が注目だ。19日に行われる男女の準決勝・決勝を総合テレビ、BS4Kで生中継し、NHKプラスでも同時配信する。また、ブレイキン応援団長として、みずからブレイキンを踊るBBOYでもある、ナインティナインの岡村隆史さんが番組を盛り上げる。岡村さんは10代の頃ブレイキンに没頭し、日本を代表する強豪チームに所属して活躍した経験をお持ちだ。

NHKスポーツのブレイキン特設サイトでは、ブレイキンになじみのない方にもお楽しみいただけるよう、ルールや競技の魅力、大会の見どころをわかりやすく紹介する。また、全日本ブレイキン選手権の熱いバトルをノーカット動画で配信するほか、詳しい結果速報や選手情報も伝える。

NHKプラスでは、全日本ブレイキン選手権の様態を同時に見逃しで配信し、関連番組も配信する。

また、特設サイトでは、きょうからショート動画を公開。個性にあふれ、創造的なブレイキンの精神を表現した。昨年の世界選手権のメダリスト、Shigekix 選手と AYUMI 選手を起用した。

番組でも様々なブレイキンの魅力をお届けする。2月4日には、世界最高峰の団体戦に挑んだ日本チームの活躍を追った番組、「ブレイキン団体戦の頂点、バトル・オブ・ザ・イヤー・イン・沖縄」。2月12日は、BS1の番組「アーバンスポーツファンズ」がブレイキンの特集する。いずれも BS1 です。3月6日には、Eテレの子供向け番組「天才てれびくん・ハロー」で、2人の“てれび戦士”がブレイキンに初挑戦。3か月間の猛特訓を経て、全日本ブレイキン選手権のステージで発表するまでの様子を紹介する。

地域放送局でもブレイキンを取り上げていく。札幌では放送局のスタジオで地区予選にあたるブロック選手権を開催。来年度は、ブロック選手権をさらに積極的に開催し、ブレイキン体験会等も実施していく予定だ。  
(詳細は報道資料を参照)

### (3) ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から1年(林メディア総局長)

世界のエネルギーや食糧を含めた安全保障の問題が深刻になる中、そのきっかけともなったロシアによるウクライナへの侵攻が始まって、まもなく1年が経とうとしている。これにあわせて、関連する番組を集中的に放送する。この1年、NHKは、戦況の正確な報道に努めたのはもちろん、大国間の激しい攻防や、国際政治、安全保障情勢の劇的な変化、これに向き合う日本政府の動向、ウクライナからの避難民の様子などについて、客観的かつ迅速な報道に総力を挙げて取り組んだ。この問題は、エネルギーや食糧も含めた安全保障に拡大し、日本でも物価の高騰といった形で人びとの暮らしに大きな影を落としている。そうした中、視聴者のみなさまに少しでも役立つ情報を伝えることを心がけてきた。2月には、ウクライナから見た現状に限らず、世界で今、何が起きているのかなど、さまざまな視点でお伝えする予定だ。『NHKスペシャル』では、ウクライナ関連の番組を多角的な視点から放送する。2月18日は、「キーウ 子どもたちの冬」。キーウの学校に密着し、戦争が子どもたちにもたらす大きな影響、そして戦争をどう伝えるか苦悩する教師たちの姿を見つめる。19日は、「シリーズ・混迷の世紀」で、ロシアのウクライナ侵攻以降、難しい舵取りを迫られている国連・安全保障理事会の姿を伝える。26日の「軍事侵攻 緊迫の72時間」では、1年前の開戦時、ゼレンスキー政権内部で何が起きていたのか、幹部たちの新証言と未公開映像で緊迫の72時間に迫る。このほか、『BS1 スペシャル』で、日本に暮らすウクライナの人たちが、祖国の大切な人に新年祭のプレゼントを届けようとする姿を見つめるなど、様々な角度からこの問題について取り上げる。放送以外にも、NHKオンラインの『NHK NEWS WEB』や『NHKプラス』にウクライナ情勢特設ページやプレイリストを作成しているほか、NHK for Schoolには子どもたちや先生にお勧めしたいコンテンツをまとめている。ウクライナの現状について、子どもたちが理解したり考えたりするために、ぜひご活用いただければと思う。視聴者のみなさまの暮らしに直結するウクライナ情勢については、今後も取材者の安全管理を徹底しながら報道していく。

(詳細は報道資料を参照)

### (4) 防災プロジェクト「命をまもる 未来へつなぐ」 備えを考える一助に (山内メディア戦略副本部長)

先週末に阪神淡路大震災をテーマにした NHK スペシャルを放送し、このプロジェクトが本格的にスタートした。東日本大震災から12年となる3月には、これまで積み重ねてきた取材と最新の研究をもとに、多様な視点で番組をお届けしていきたいと考えている。まず、近い将来、確実に起こるとされる「南海トラフ巨大地震」についての NHK スペシャルのシリーズ。今回、放送するシリーズでは、多くの専門家が警戒する「半割れ」と呼ばれる現象を取り上げる。「半割れ」は、巨大地震が時間を置いて、東と西で起こる現象で、一度の巨大地震よりも生活や経済への深刻な影響が長期間にわたって続くこともわかってきた。

番組は、2夜にわたって放送する。第1夜は、高知・大阪・東京の3つの地域で、「半割れ」がもたらす最悪シナリオの深刻さを、人間模様も交えたドラマで描く。第2夜では、その最悪シナリオに正面から向き合い、被害を最小限に抑えるために今、私たちに何ができるのか、最新のルポを交えて、専門家とともに探っていくと考えている。

そして、東日本大震災については被災地を継続的に取材してきたNHKならではの番組をお届けしていく。3月11日には、津波で職員や患者の9割が亡くなった石巻市の病院の“あの日”とその後の12年間を見つめるドキュメンタリーをお届けする。また、国の復興事業がほぼ完了した被災地の現状をデータで解析する調査報道番組など様々な視点で伝えていく。

プロジェクトでは、全国各地の放送局とも連携し、命を守る情報を発信していく。東北の各放送局は2月から3月にかけて、資料に記載してある全国放送の番組に加えて、東北ブロックや地域の放送でも被災地に暮らす人々に寄り添う番組を多数お届けする。また、東海・首都圏・北海道の各局でも、それぞれの地域で懸念される地震とその対策について伝える。西日本の各局は、「南海トラフ巨大地震」の放送後、番組、ニュース、イベントを通じて、それぞれの地域の被害想定や対策について、きめ細かくお伝えする。

NHKは、これからも被災地を見つめ続けていきます。

(詳細は報道資料を参照)